

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 1グループ

本院再構築後の地域住民の生活環境の変化

- ・地域を支えている商店街の今後について
- ・人の流れがどうなるのか
- ・臼田地区からの人口の流出（子どもたちの減少、過疎化）
- ・地元市民の生活の変化
- ・看護学校の充実は
- ・雇用の場の減少

本院周辺のインフラ整備について

- ・環境整備の遅れ
- ・駐車場の位置とそこへの動線
- ・道路網(病院東側)がどうなるのか
- ・地域医療センターを再構築した場合、行政は道路整備等を計画しているのか
- ・地域医療センターを構築するにあたり、駐車場を含めどの位の広さを希望しているのか
- ・河川敷の駐車場の活用方法
- ・駐車場スペースをどこで確保するのか。

本院の医療の内容について

- ・小児科がないのに内科医が責任を持って診療できるのか
- ・病院が二つあり、医師確保60名であるが研修医での対応にならないだろうか
- ・地域医療センターの具体的な内容を教えてほしい
- ・佐久病院の計画と当協働まちづくりWSの計画が合わない
- ・医師の数が限られることにより、診療科目が減ってしまうのでは
- ・本院の基本構想もできていない
- ・300床のうち精神科病床は何床か
- ・病院の建物のイメージはイラストどおりなのか(いかにも病院という形は親しみに欠ける気がする)
- ・地域医療センターについて50~60億の予算を見込んでいるが、必ず確保できるのか
- ・本当に地域医療センターの建設はできるのか
- ・優秀な医師の流出
- ・佐久総合病院が言っている医・職・食・住・友・遊とは何か、当WSにつなげないか
- ・昨年11月の臼田地区説明会に提出されたイメージ図で進めて良いのか
- ・診療科目をできるだけ今まで通りに残してほしい
- ・人間ドックは地域医療センターに一本化してもよいのではないか
- ・臼田、南佐久の御産はどこでおこなうのか(正常分娩の場合)
- ・救急の診療が受けられるのか
- ・基幹医療センターが本院になってしまう

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 2グループ

地域医療センター（本院）の内容が  
はっきりしてこない不安

- ・地域医療センターの構想がはっきり見えないため詳しい説明がほしい
- ・地域医療センターは将来分院のような形になってしまうのか不安
- ・地域医療の中身はどのようなものか、医師と患者とまちとの関わり
- ・地域医療センターの運営への住民参加をどのように高めるのか
- ・わけもなくある不安をどこで、だれが、どの様に説明するのか
- ・徐々に基幹型医療センターに引き上げられ、老人介護専門になってしまうのでは
- ・分院のようなイメージを受ける
- ・今までは軽、重病にこだわらず臼田の佐久総合病院に行けば助かってましたが重病の場合は医療センター等で対応できるのでしょうか
- ・夜間診療の受け入れは可能か
- ・緊急を要する発病時の対応は(基幹型医療センターへ行くのに今より遠距離となり手遅れにならないか)

医師確保への不安

- ・地域医療センターになった場合、医師の確保が充分できるのか
- ・医師不足の対応策はしっかりしているのか
- ・看護専門学校について、看護師、療法士の養成に努め、まちの住民増加にして  
いきたい  
医師の確保がなされるのか

病院の駐車場への不安

- ・病院の駐車場を河川敷から追い出された場合どうなるのだろうか
- ・河川敷駐車場は今後使用しない場合、駐車場に関する不安
- ・現在の佐久病院周辺の歩道環境が悪い(車イスでの移動が不安)

高齢者福祉への不安

- ・病院は今後、在宅介護に力を入れるようになるが、老人だけの家が増えていく中で福祉は大丈夫なのか
- ・病院附属機関の老人健康施設を病院はどう考えているのか。
- ・高齢者福祉の取組みの強化

病院への要望

- ・臼田と言えば世界の佐久総合病院と言われるくらい有名な病院で名が通っているが、臼田のトレードマーク世界の佐久総合病院を現状保持できないか
- ・住民の専門医思考への対処をどうするか
- ・地域医療センターは病気を治すところだけでなく、医療に関わる本(医学書)、歴史など全国から医を志す人の学びの場も併設できないか
- ・受診する患者数の減少により周辺の商店等の客数が減り、町が寂れる

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 3グループ

不 安

- ・高齢化に拍車がかかるのでは
- ・公共交通が不便になるのでは
- ・人の流れが少なくなり商業等が寂れるのでは
- ・臼田の小学校は、生徒数が減少し他地区と差がつきすぎる

問 題

- ・臼田の人口を増やす対策を考える
- ・病院土地の利用方法
- ・佐久市の都市計画の見直しがされ了承されたと報道されているが中身が知りたい。

要望・課題

- ・医療機能の分割という再構築計画が地域の医療にどのようなダメージを与えるか不明確であること
- ・臼田橋上流河川敷整備、グラウンド等
- ・稻荷山公園の整備(駐車場、展望風呂)
- ・親水公園の早期完成
- ・市長の健康都市と合わせた老人共生施設のようなものができるか
- ・医師の確保に対する力の入れ方に基幹医療センターと地域医療センターとで差がでるのではないか
- ・佐久病院への要望はどこまで可能なのか。
- ・臼田に本院を

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 4グループ

病院の医療に関する不安

- ・小児科医、産科医がいなくなり子供達の健康管理に不安を感じる
- ・専門医が確保できるのか
- ・今ある全ての科の中で残る科は何であるか
- ・縮小した病院で臼田地区の患者はどこへ行けばよいのかわからない
- ・今と同じ診療は受けられるのか
- ・現在の365日24時間患者の受け入れ体制は大丈夫なのか
- ・臼田の住民の病院再構築に対する過剰な不安
- ・産科、小児科が復活できるのか分からない。
- ・これまで通り夜間、休日も対応してくれるのか

昼間の流入人口減少に関する不安

- ・若年層(生産人口)の流出に拍車がかかるのではないのか
- ・昼間の流入人口の減少により地域の人口減少に拍車がかかるのでは
- ・分割移転に伴い地元商店への影響が不安である
- ・地域の人口減少が商店等の減少につながる。ひいては臼田のコミュニティの形式もできなくなるのではないのか
- ・臼田の町内が寂しくなってしまう

医療と住民とのかかわり方

- ・医師も人間なのでオーバーワーク改善が必要。そのために市民の側で上手な病院のかかり方についての学習や協力が必要
- ・人口が減ることを踏まえてまちづくりを考える必要性
- ・病院→街 街→病院への通路・歩道に格差が大きい。病院と商店街との動線良くない
- ・新しい病院は新しいまちに合わせて作ってもらうことが必要では
- ・まちづくりのビジョンを病院と共有する必要性

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 5グループ

今後の再構築は、将来とも  
医療・介護・福祉において  
その質・レベルを維持できるか

- ・介護、福祉において地域医療センター・JA・社協・NPO等の連携は将来とも変わらず維持できるか
- ・医療対象領域の拡大により地元患者の受け入れに問題は発生しないか
- ・地域の高齢化に見合った地域医療センター機能を恒久的に確保できるか
- ・高齢者、障害者にやさしいまちづくり(バリアフリー)

地域医療センターの基本計画の早期策定

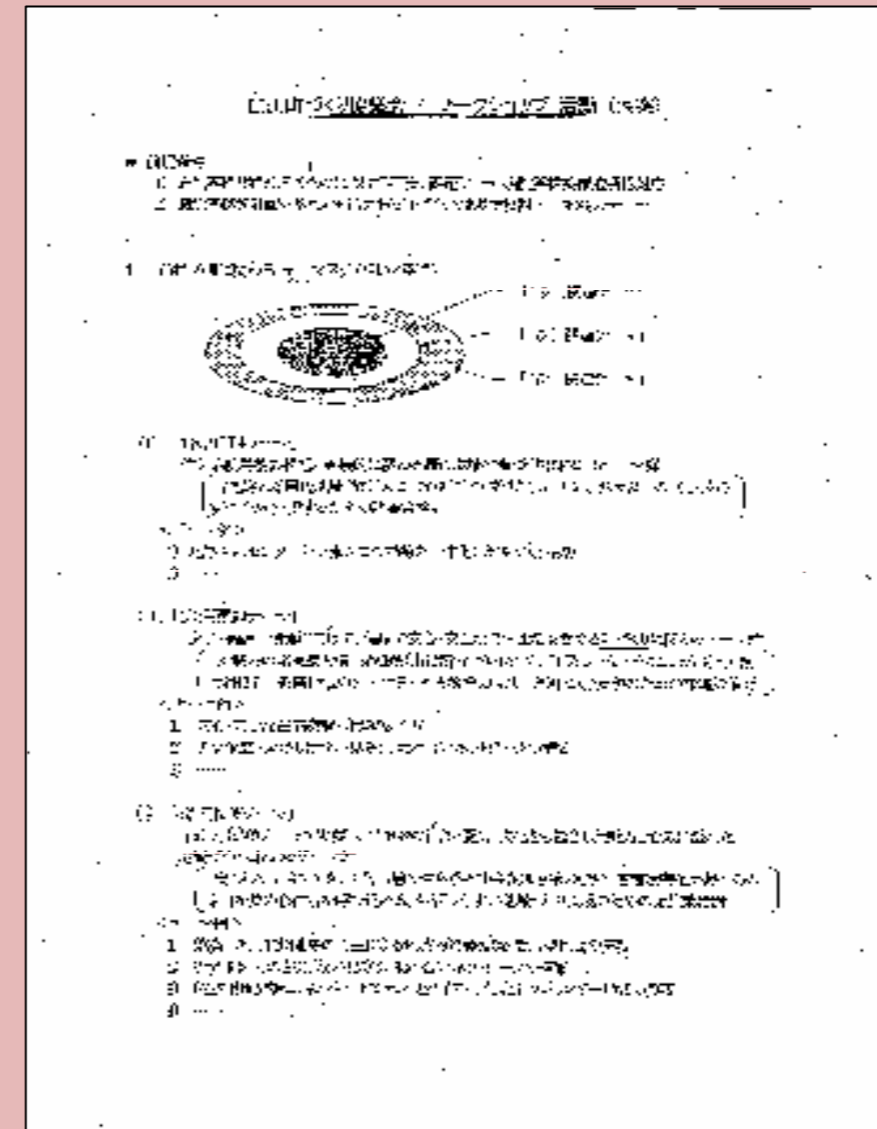
- ・地域医療センターの基本構想の早期策定、開示(住民が確実にイメージできる構想提示)
- ・住民への説明をし、不安の解消

地域の人口減少問題

- ・人口、交流人口の減少により商業の衰退につながる

ワークショップテーマの設定区分のあり方

- ・望ましいまちとは
- ・イメージ策定
- ・現状の問題、不安も解消するテーマ設定



臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 6グループ

不安解消のため再構築計画の周知をどうやるか

- ・地域医療センターになった時、地域交通(バス等)が不便になることはないか
- ・地域医療センターになった時に外来患者数も減ることになり商業等への影響がないか懸念される
- ・基幹部分の移転、現行規模縮小による臼田地域内の空洞化の懸念
- ・分離に伴う患者、人の流れの影響度合いが予測できない(周辺、商店街他)
- ・中込との分離ということは理解ができるが、全体像や具体的な内容がいまひとつ把握できない。明確なタイムスケジュール等も含めて知りたい

新たな仕事・雇用の創出

- ・地域医療センターにおける健康管理、医療、福祉の活動の展開に伴って、臼田で新たな仕事の創出(雇用拡大)ができないか
- ・病院の業務に対してシルバー世代の方々の採用ワークシェアリング

土地利用・施設などの新たな計画(ハード面)

- ・地域医療センター構築と健康都市づくりの一体化(医療と行政)
- ・医療センター構築と健康管理
- ・健康管理(健康増進)の為に生活環境、交通環境の整備
- ・駐車場の方向性 → 中央公園化
- ・臼田駅、龍岡城駅から医療センターへの歩道アクセスの整備
- ・遊歩道の整備

病院と住民・組織(施設)との  
協同活動、ボランティア活動(ソフト面)

- ・病院(医療)と介護、福祉との調和、連携したまちづくり
  - ① 空き店舗、空家の有効活用
  - ② 訪問診療、訪問介護、訪問助け合い
- ・安全な生活環境
  - ① 清涼な自然
  - ② 安全な食物
  - ③ 安全な子育て
- ・小児科、産科、救急医療への要望は臼田の地域医療センター、基幹医療センター、他の医療機関でどのように対応できるか(説明及び合意形成)
- ・ボランティア活動の促進

臼田協働まちづくりワークショップ  
11月25日 グループ討議結果 7グループ

本院の施設内容

- ・小児科の存続、一人でも小児科医を常勤させてほしい。(少子化・大切な子供の命)
- ・臼田分院になってしまうのではないか。(病院の再構築案を知らない不安)
- ・医師不足による診療科の減少と医療の充足度が不安になってくる
- ・産科や婦人科がなくなってしまうという事なので助産師などを病院に在中させてほしい
- ・老人が主体となった病院になってしまうのではないか
- ・再構築に伴い病院の機能が現在と違ってきてしまうのではないか
- ・臼田の住民は(救急車以外の場合)夜間の高熱等どうしたらよいか不安、判断はどうやってどこで決めるのか
- ・病院に受診したい時にどちらの病院に行けばよいのか
- ・老人科の必要性を感じる。高齢社会に向かっている今、高齢者介護の認定を精神科では受けたがらない。介護関係者から早期に受けていればこんなに大変にならない。
- ・小児科医と産科医は今後増えるのか。医師の確保はできるのか
- ・精神科を抜かしたベッド数を三百床にしてほしい
- ・病院の規模が小さくなってしまいうので臼田地区の雇用が減ってしまうのではないのか

関連施設

- ・病院が病院の施設(病院本体、医師住宅、看護学校、駐車場)をどのようにまとめるか意見を聞きたい
- ・河川敷の駐車場の使用は臼田地区で決めてよいのか
- ・現在地にこだわらず駐車場を西側に設置しては。台数の具体数を知りたい
- ・病院移転に伴う人口減少に対する不安

病院へ

- ・ワークショップを進める中で計画を説明できる人や疑問に答えられる厚生連の方の参加を求めたい
- ・再構築に対しての病院からの具体的な説明がない。現在では全てイメージだけ

行政へ

- ・行政からの経済的援助は極力控えてほしい
- ・市から予算を取らないでほしい(皆の血税だから)

考え方

- ・病院一極ではなくもう少し広い視野でのまちづくりを望む